ひたち海浜公園の花園を支える隠れたノウハウを初公開！

訪れる私たちの目を、四季を通じて楽しませてくれる美しい花々や、手入れの行き届いた遊歩道などの園内施設。一見何げないこれらの〝快適さ〟の背景には、ひたち公園管理センターのスタッフが研究を重ねて編み出した、独自の管理手法が隠されています。その中でのとっておきのノウハウを紹介します。

この整列された間隔が、
美しい花を咲かせる秘訣

●ネモフィラの筋蒔（すじま）き
お行儀よく整列しているのは きれいな花を咲かせるためのヒケツ

「みはらしの丘」を一面に覆う、ネモフィラの青い花。遠目には隙間なく敷き詰められ、まるでじゅうたんのように見えますが、実は種まきの際に、一定の間隔で〝筋蒔き〟されています。

公園の草花育成で重要なポイントは、雑草との闘いだといっても過言ではありません。〝筋蒔き〟は、その雑草取りで足を踏みいれるスペースの確保と、ネモフィラの伸びしろを確保するために欠かせません。

ちなみに、この〝筋蒔き〟の間隔は20センチであり、何度も繰り返し試して発見された、「一番よく育ちきれいに咲く」とっておきのノウハウです。なお、この間隔は同じ植物でも、場所により異なります。管理センターの担当者は、何年もかけて何センチがベストなのかを割り出しました。

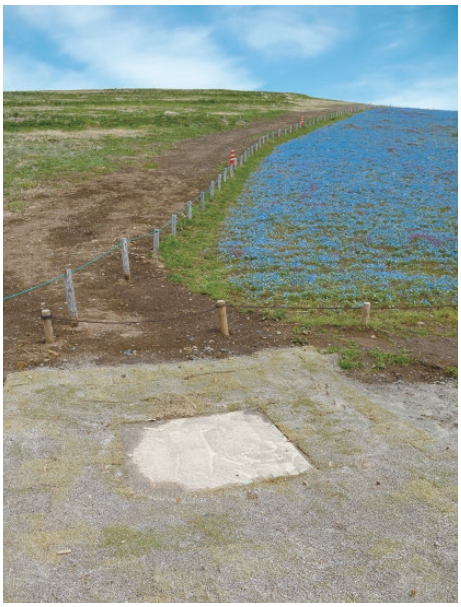
●柵とピクトグラム
さりげない表示で「あ、そうなんだ！」と気づいてもらう

植物を保護するため植生エリアは原則として立ち入り禁止ですが、以前は遊歩道との境が何もなかったため、そうとは知らずに踏み込んでしまう方も少なくありませんでした。「そこで20センチの低い柵とピクトグラムで注意を促したところ、立ち入る方がいなくなりました。悪気はなく、気づかなかった方がほとんどなので、私たちの方から、積極的に分かりやすい表示をすることが大切だと気づかされました」と、ひたち公園管理センターの業務課長の加藤は語ります。

さりげない表示で“気づき”を促す。

●土壌の観察・改良
地上から、空からの目配りで土地のコンディションをチェック

ひたち公園管理センターでは、普段から園内の土壌の様子を入念にチェックしています。時にはドローンを用いて上空から撮影した画像を基に状況を把握し、改良の対策に役立てています。また、みはらしの丘の土壌中の水はけを良くするため、集水管を埋設するとともに丘の麓（ふもと）には排水用の地下水路を設置するなど、景観に配慮しながらさまざまな対策を施しています。



「みはらしの丘」の麓に埋め込まれた雨水排水用の設備

上から流れてきた水がここに集められ、さらに低い方へ流れていく。

column

オフシーズンの惜しみない努力で美しい花を咲かせる

ひたち公園管理センター 業務課長　加藤伸治

ネモフィラのシーズン（4月中旬～5月上旬）が終われば、秋にはコキアとコスモスが楽しめます。コスモスは、台風時の海風で葉が焼けてしまうことや、倒れやすいというリスクがあること、また、当園で紅葉を楽しんでいただきたいという思いから、コスモスの一部をコキアに切り替えました。当公園のコキアは丸くなるのが特徴です。種苗会社が当公園用に開発した品種で、一般には流通していないものです。

当公園の花のシーズンは、コキアが赤色そして黄金色に紅葉する10月末までですが、私たちはここからが大忙し。春夏秋と花を咲かせてきた土を、再び耕したり肥料を入れたりして、次のシーズンに向けた土壌の立て直しを急がなければなりません。

初期生育で花を雑草よりも優位に育てあげ、光と風を十分に与えてあげることが重要です。除草スタッフなしでは、花園を維持することは出来ません。最近はスタッフの高齢化と人手不足で、それを補うために小型の耕運機などを導入して、作業の省力化の工夫をしていますが、それでも株の間の狭い場所などは、手作業で雑草を取るといった苦労もあります。

多くの皆さまに楽しんでいただくために、国営常陸海浜公園事務所と協力しながらこれからもがんばっていきたいと思います。

みはらしの丘に植栽されたネモフィラとコキア。除草は"手作業"

丹精を込めて育てているネモフィラをバックに話す業務課長の加藤